

地域の文化・産業を蘇らせる為の「観光・産業ITS」の提案

～地域が地域の尊厳を持ち成長するには～

道路は点と点を結ぶものです。

世界最古の道路の記録は、BC 1900年頃中欧及び東欧の古代商人が定期的な商売を行うために4本の商業路が出来たものだそうです。

点を充実若しくはさせる為に線が必要となるのですが、主は線ではなくて点であるべきです。点が充実しなければ線の必要性が問われる事となります。

しかし、近年の日本を見ると、公共工事の恩恵を受ける人口が多い為か、線にばかり目がいつているとしか思えない。

例えば私の住む宮崎では東九州自動車道を悲願しているが、果たして道路が出来事を望んでいるのか？それとも道路がもたらす経済効果を望んでいるのか？

高速道路等の高規格道路の整備が進んでいる地域を見たとき、必ずしも整備された事が好結果に結びついている所ばかりではない。ストロー現象で過疎化が進んだ地域や、道路が整備されるまでは宿泊地だった観光地が、通過点の一つになり、観光産業が大打撃を受けた地域もある。

では、点＝地域の整備を考えたとき、今の日本に足りないものは何だろうか？

近代日本の街づくりは明治後150年程度であるが、もっと歴史の長い北欧を見ると街(コミュニティ)づくり自体を100年スパンで見ながら、地域の特徴を活かした街づくりを行っている。それぞれの街(コミュニティ)には、ある程度の予算を権限が与えられている。その結果、景観や文化等を保った特長のある街が今も残り、その地域の人は自分の故郷に対して誇りを持っている。

日本では江戸時代の日本は、徳川幕府のもと300の藩とその下に國があり、お国自慢が出来た時代があった。(ひどい藩主のもとでは一揆や脱藩する人もいましたが・・・)

同じ事を近代日本で求めるのは、国土・文化・歴史・利害関係の違いから難しい部分もあるが、市町村合併や三位一体施策が進められている昨今、やらねばならないのは故郷づくりではないでしょうか？

地域の良さを地域外からの御客様は勿論、地元の人が再発見する事により、地元への愛着が増し、活性化に結びつくのではないのでしょうか？

今回私が提案するのは、地域の活性化につながるような観光・産業ITSです。

江戸時代に旅人が宿場街にて仕入れた「この宿場街の観光・産業の情報」「次の宿場街の観光・産業の情報」「次の目的までの災害情報」等を、「道の駅」や「鉄道結節点」にて、限

られた地域の新鮮な情報を配信するサービスと、その情報をインターネットにて結びどこからでも活きた情報を入手できるシステムです。

イメージ的にはカーナビシステムのような形ですが、異なる点は

- ■ 活きたデータに重視し、データ更新に心がける
 - ■ 通過中に少し時間が出来た人の様な人が暇つぶしに使える様に直ぐ入手可能
 - ■ お祭りや朝市等の地域の取れたて情報とそこまでの誘導
 - ■ 一般的な観光地は勿論地域の人しか知らないような、豆腐屋さん、醤油屋さんといった穴場情報の提供
 - ■ パソコンで全てデータ作成が容易い方法を考える
 - ■ 作成した情報をインターネットで結べる方法を考える
- です。

配信方法としては

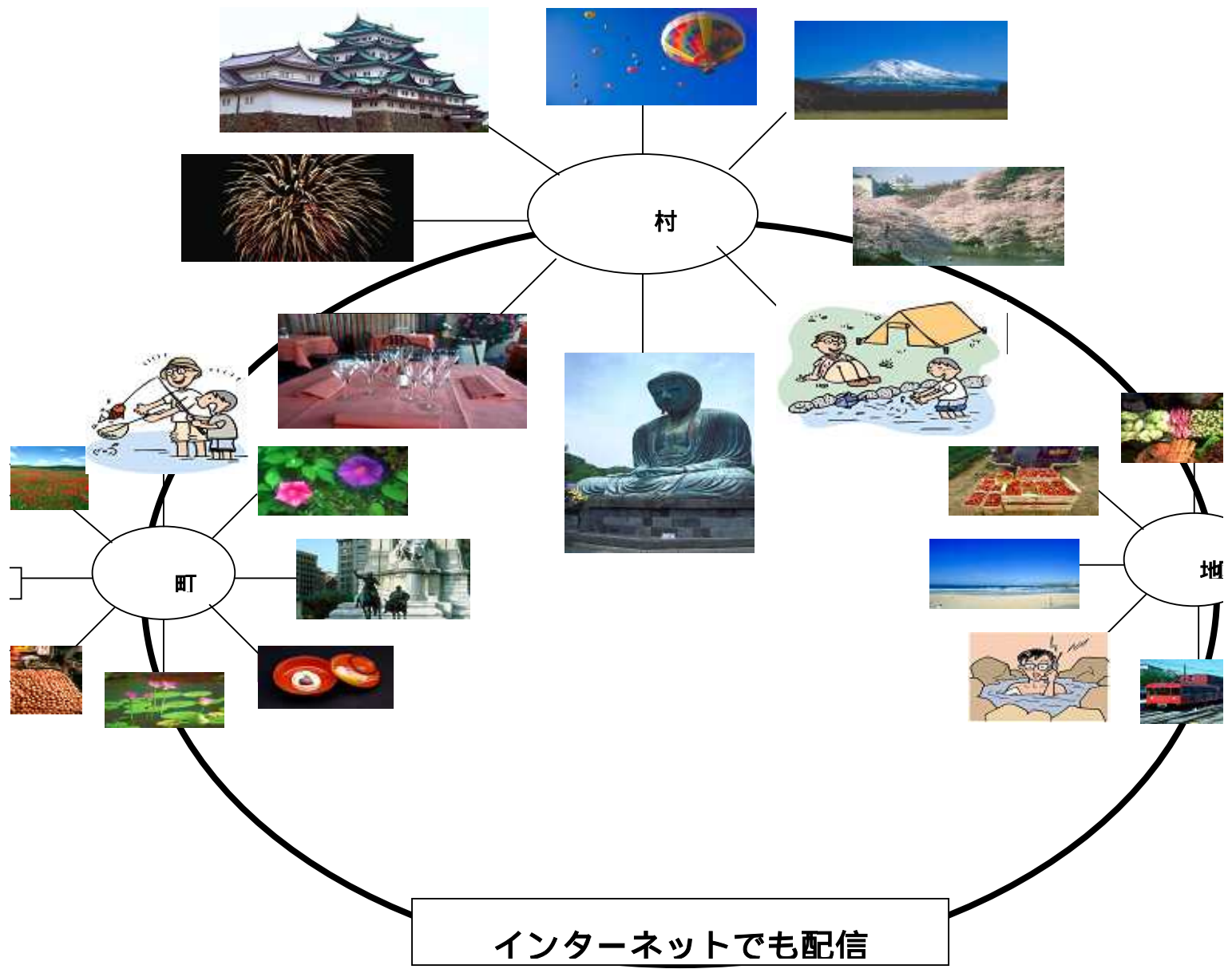
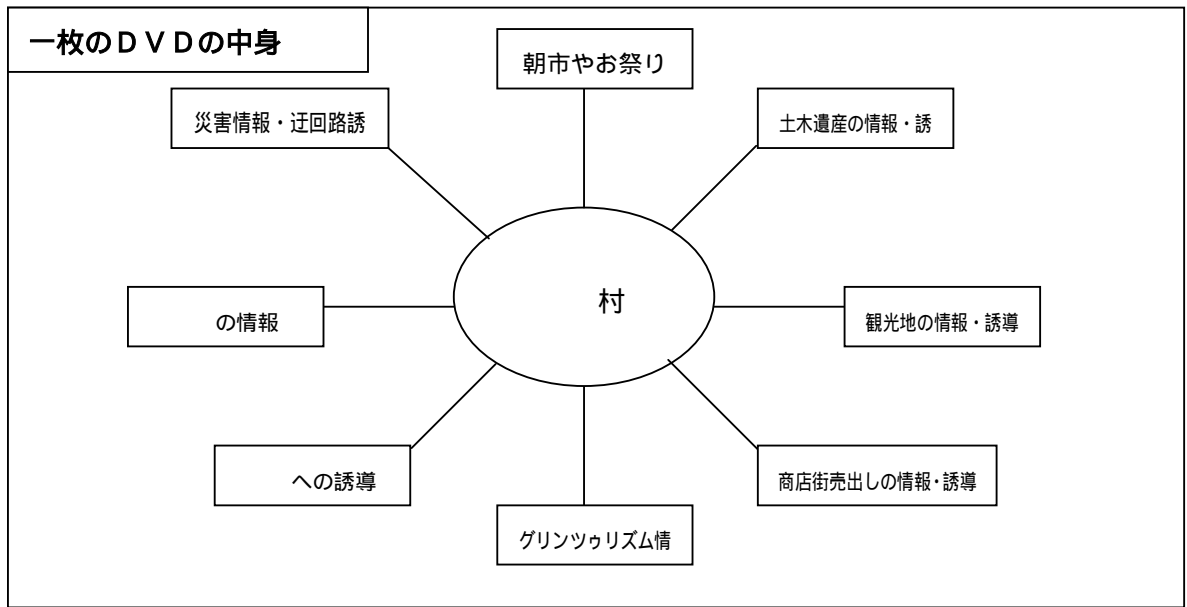
自動車利用者向けには

- ■ 給油するように、道の駅やガソリンスタンド、代表的な観光地等で、カーナビに電波を送り込む
- ■ DVD-ROMにて配布

飛行機・鉄道等の公共機関利用者には

- ■ 歩行者向けナビ貸与（歩行者ITS）
 - ■ MD・MP3による音声誘導
- 観光ガイドブック+音声誘導

イメージ図としては次の通りです。



最後に、道路や街づくりを計画した時、B / Cがどうかではなく、人を呼び込める故郷造りをしている、若しくはこれだけ魅力のある故郷なので、動線を良くして欲しいといった形で要求が出来るよう環境になればと思います。

又、住民がそれぞれの故郷のお国自慢 = 営業マンになれるようになれば、仮面のような街が連なる日本では無くなるのではないのでしょうか？